

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R4入学 現3年生	国語			数学		
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時
	県 (12月)	県 (4月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (4月)	全国 (4月)
	51.8	54.1	52.0	50.1	43.2	42.0
	(0.91)	(0.91)	(0.95)	(0.90)	(0.86)	(0.88)
R6正答率の全国比			0.90	0.80		

◎1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和6年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・質問紙調査から読み取れる実態

・国語科では、「必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができる」(話すこと・聞くこと)が全国
の平均正答率より0.2ポイント高い。逆に「自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる」
(書くこと)は12.2ポイント低い。また無解答率も高い。「言葉の特徴や使い方に関する事項」の指導がさ
らに必要で、知識・技能の強化が求められる。

・数学科では、全体として全国の平均正答率を10.5ポイント下回っている。その中で関数に関する問題は
比較的の平均正答率が高かった。逆に「等式を目的に応じて変形することができる」(数と式)の平均正答率
が18.7ポイント低く、「筋道を立てて考え、証明することができる」(図形)では平均正答率が16.9ポイン
ト低い。知識・技能の強化が求められる。

・意識調査からは、将来の夢や目標を持っていると肯定的に捉えている生徒が76.9%と高い。また「授業で
ICT 機器をどの程度使用しましたか」の質問に対して、週3回以上使用した割合が全国より7.3ポイント
高く、県より39.1ポイントと大幅に高く、積極的な活用がなされているが、その有用性については肯定的
に捉えている生徒の割合は全国・県と同程度であり、課題が見られる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

・「授業づくりのステップ1・2・3」等の授業改善リーフレットを活用した取り組みを推進する。

・リーディングDX事業の取り組みとして、公開授業・授業研究会を年3回開催し、ICTの効果的な活用法を高
めていく。これを基に、個別最適な学びと、協働的な学びの充実を図る。

・授業において「見通し」や「振り返り」の場面を設定し、主体的な学びにつなげる。

・実力テストに合わせて学習強化期間を設けたり、単元テストに向けた計画的な学習を進めたりするなど、
家庭学習の質の改善を目指す。

・各教科において、タブレットドリル活用して基礎・基本の学習を繰り返し行い、定着を図る。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

・朝の会や帰りの会等でフォーサイト手帳を活用して、見通しを持ち、自ら進んで学習や生活に取り組むこ
とができるように支援する。さらにタブレット(クラウド)の活用により、家庭でも自分の学習を振り返り、
予習・復習を進めていくように支援していく。

・「家庭学習の手引き」の配布、学校HPへの掲載を通して保護者と共に学ぶ意欲や姿勢を高めていく。

・朝読書や朝無言掃除を通して落ち着いた教室の雰囲気の中で授業を開始している。

・各種行事において、生徒が主体的に取り組む場面をこれまで以上に設定していく。

令和6年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて
武雄市立武雄北中学校

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R4入学 現3年生	国語			数学		
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時
	県 (12月)	県 (4月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (4月)	全国 (4月)
	64.4	64.6	61.0	58.4	55.1	46.0
	(1.13)	(1.09)	(1.11)	(1.04)	(1.10)	(0.96)
R6正答率の全国比			1.05			0.88

◎1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和6年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

●学習状況調査【2教科共通】に読み取れる実態

- ・問題形式では、短答式の正答率が低い傾向にある。
- ・無回答率が、全国や県と比べると低い。あきらめずに自分が知っている知識でなんとか解いていこうとする態度が身についている。

●学習状況調査【国語】から読み取れる実態

- ・全国や県と比べると、平均正答率が高い。
- ・学習指導の領域の知識及び技能の3つの事項すべてにおいて佐賀県と全国の平均正答率を上回っている。
- ・学習指導の領域の思考力、判断力、表現力等の書くことの正答率が高く、佐賀県と全国の平均正答率を上回っているが、話すこと・聞くことの正答率が低く、佐賀県と全国の平均正答率を下回っている

●学習状況調査【数学】から読み取れる実態

- ・全国や県と比べると、平均正答率が高い。3年時は低い。
- ・学習指導の領域のすべての項目において、正答率が低く、佐賀県と全国の平均正答率を下回っている。特に、図形の正答率が低い。

●意識調査から読み取れる実態

- ・朝食を毎日とっているかや睡眠についての質問事項では、肯定的な回答の割合が高く、生徒は良好な生活リズムを身につけていることがうかがえる。
- ・授業でICT機器をよく使って学習した生徒の割合が高く、自分の考えをまとめ、発表する場面で積極的に活用している。
- ・1日当たりのゲーム（コンピュータ、スマホ）時間は、1時間以上と回答した生徒の割合が80%と高く、家庭学習時間が少なくなっている。
- ・人の役に立つ人間になりたいと考える生徒の割合が高く、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っていることがうかがえる。
- ・国語、数学、理科の勉強が好きな生徒の割合は高いが、授業で学習したことを今後の学習で活用しようとする生徒の割合は低い、

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・各教科において I C T を有効に活用し、他者とのかかわる活動を仕組んだ「個別最適な学び」と「協働的な学び」につながる授業づくりを実践する。
- ・授業において、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表する機会を増やす。
- ・電子黒板にモデルやリード文を示し、書くことが苦手な生徒にも、取り組もうとする意欲や書けたという成功体験をもたせる。
- ・定期テストや課題テスト等で記述式の問題を増やす。
- ・学級活動や道徳の授業では、自己肯定感を高める教材を計画的に取り扱っていく。

(2) (授業以外) 生徒の課題改善のための重点取組

- ・ I C T スキルの向上のためにタイピングの練習を取り入れ、学習規律の効果を高める。
- ・「家庭学習大作戦」を授業と関連させながら、徹底させる。
- ・有明抄の試写によって文章の理解力を向上させる。
- ・学級活動で話し合い活動や、レクリエーションの企画などを通して、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表できる場を増やす。
- ・行事等の活動方法を工夫して、コミュニケーション能力を高める手立てをとる。
- ・学校生活全般の中で、生徒自身が自ら選択する自己決定の場面を意識的に設定する。
- ・生徒会活動において、生徒自身による企画、立案の行事を増やす。

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R4入学 現3年生	国語			数学		
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時
	県 (12月)	県 (4月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (4月)	全国 (4月)
	55.5	56.5	52.0	53.4	47.6	47.0
	(0.97)	(0.95)	(0.95)	(0.96)	(0.95)	(0.98)
R6正答率の全国比			0.90			0.90

◎1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和6年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

・令和6年度の3年全国学習状況調査では、国語の問題別にみると「表現の技法について理解しているかをみる」問題の正答率が80.0%で、県52.5%より27.5%高い。しかし、「文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈する」問題の正答率が20.0%で、県34.9%より14.9%低い。国語の観点別にみると「知識・技能」の正答率が59.2%で、県59.6%より0.4%低い。「思考・判断・表現」の正答率が46.7%で、県51.5%より4.8%低い。

・令和6年度の3年全国学習状況調査では、数学の問題別にみると「問題場面における考察の対象を明確にとらえ、正の数・負の数の加法の計算ができる」問題の正答率が90.0%で、県88.3%より1.7%高い。しかし、「筋道を立てて考え、証明することができる」問題の正答率が00.0%で、県17.4%より17.4%低い。数学の観点別にみると「知識・技能」の正答率が60.0%で、県58.9%より1.1%高い。「思考・判断・表現」の正答率が19.0%で、県23.2%より4.2%低い。

・両教科で、共通して考えることは、知識・技能的な基礎的問題では、理解できるまで個に応じた学習指導を繰り返した結果、学習理解の定着がみられたことである。しかし、思考・判断・表現的な応用的問題では、問題文の取り違い、解法の手順の誤答、途中で意味や解法が分からなくなるなど、学習理解の課題がみられた。また、記述式の問題形式で、正答率が低い傾向がみられた。そのため、特に、思考力を伴う問題解決では、より丁寧な教師の解説、生徒同士の学びあいの深まりを大事にして、定期的に学習を進めたいと考える。

・令和6年度の3年全国学習状況調査の生徒質問(20)の「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」で、「できている。どちらかといえばできている」の本校生徒の割合は80.0%（県79.6%）で、ほぼ県と変わらない。さらに、同(33)の「学級の生徒との間で話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」で、「当てはまる。どちらかといえば当てはまる」の本校生徒の割合は85.0%（県86.0%）で、ほぼ県と変わらない。これらは、日々の先生方の授業実践(探究的活動)の取り組みの成果でもあると考える。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・校内研修では、6月と12月に、それぞれ3週間、校内で授業参観を計画して、生徒の学びを広げ、深めるための対話活動を取り入れた授業実践をして、教師の授業力を高め合っている。
- ・授業では、話し合い活動を入れ、生徒同士、生徒と教師、AIの活用を通して、生徒は、自分の考えを他者に伝え、比較検討して、自身の考えが深まる学習体制を進め、その方法として、ワークシート、タブレット、ホワイトボードなどで伝える活動を進めている。
- ・8月1日の校内研修で、令和6年度の2年県学習状況調査国語で「文章を読む習慣をつけさせる」「朝読書の有効活用をさせる」、数学で「文章をよみ、指定されるところを文字で置き、説明する活動を高めるために、解答の手順をつかませる」の課題に力を入れることを全職員で分析した。
- ・分析結果を踏まえて、研修や実践を通して、今後は全教科の学習指導につなげていきたいと考える。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・昨年度から実施している「川中タイム」を、今年度も8月下旬から(週1回、火曜日の朝8:00~8:10)、各学年で実施している。小グループでの発表の機会を設定し、生徒に聞き方と話し方の両方の役割を意識させ、生徒自身の考えを相手に伝える力を高めている。
- ・「タブレットドリル」は、6月、9月、11月、2月の期末考査前に、朝の会の前(8:00~8:15)、帰りの会の前(15:55~16:10)に一斉に取り組み、また、各教科で授業や家庭学習を通して、定期的に取り組んでいる。
- ・小中連携の「学びの連携部」の取り組みとして、家庭学習強化週間を年に2回(6月、11月)設定し、生徒の学習への取り組みを高めさせている。また、小中学校の3校で、自学ノートの頑張りを各校で掲示し、より深めさせている。

令和6年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて
武雄市立山内中学校

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R4入学 現3年生	国語			数学		
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時
	県 (12月)	県 (4月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (4月)	全国 (4月)
	54.2%	54.3%	53.0%	50.4%	44.2%	44.0%
	(0.95)	(0.91)	(0.96)	(0.90)	(0.88)	(0.92)
R6正答率の全国比			0.91			0.84

◎1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和6年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・国語、数学ともに令和6年度の全国学習状況調査では、本校の平均正答率と県平均との差が縮まっている。
- ・国語において「書くこと・読むこと」の正答率が上昇している。
- ・国語、数学のどちらも記述式の解答の正答率が低い。また、『思考・判断・表現』の正答率が平均を下回っているため、身につけた知識を活用して考える力が不足している。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・授業の始めに、前回の学習内容を確認したり、小テストを実施したり、授業の最後に授業全体の振り返りをしたりすることで、知識・技能の定着を図る。
- ・授業の中に、生徒自身が一人もしくはグループで、深く考える時間や機会を設定することで、知識・技能を活用し、思考・判断・表現の活動へとつながるきっかけとする。
- ・授業のルールや、決まりを学校全体で改めて確認し、徹底させることで授業規律の向上を図る。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・週4日の「学習タイム」を設定し、家庭で取り組む自主学習ノートでの学習につなげることで、家庭学習の習慣付けだけでなく、基礎学力の定着を図る。
- ・毎週金曜日の朝に「読み取りタイム」を設定し、認知教科トレーニングや読解力に特化した問題に取り組むことで、知識・技能だけでなく思考・判断・表現の力を強化する。

令和6年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて
武雄市立北方中学校

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R4入学 現3年生	国語			数学		
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時
	県 (12月)	県 (4月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (4月)	全国 (4月)
	53.9	57.1	51.0	59.2	48.9	43.0
	(0.94)	(0.96)	(0.93)	(1.06)	(0.98)	(0.90)
R6正答率の全国比			0.88			0.82

◎1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和6年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】

- ・知識・技能は、5.8ポイント全国を下回っている。思考力・判断力・表現力等は、7.8ポイント全国を下回っている。「書くこと」「読むこと」の領域に課題が残る。
- ・表現の効果を考えて描写するなど自分の考えが伝わる文章になるように工夫する問題が最も低く、全国の6割程度しかできていない。

【数学】

- ・知識・技能は、9.1ポイント全国を下回っている。思考力・判断力・表現力等は、11.9ポイント全国を下回っている。領域別では、「関数」は全国と同程度であるが、それ以外の領域は全国を大きく下回った。
- ・等式を目的に応じて変形する問題が最も低く、全国の5割弱程度しかできていない。
- ・記述問題を中心に無解答率が全国と比べて高く、問題を解く過程を考えたり、事象の起こる理由を説明したりする問題にどう取り組んでいくかが課題である。

【意識調査】

- ・30分より少ない学習時間の生徒の割合が27%と全国と比べて高く、また、平日のスマートフォンやゲームの利用時間が3時間を超えている生徒が40%以上いる。
- ・ICT機器は勉強や友達と意見を共有するのに役立つと思っている生徒が全国や県を上回っている。
- ・学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている生徒の割合は、全国や県を上回っている。
- ・将来の夢や目標をもっている生徒の割合は、全国を少し上回っている。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

【共通】

- ・主体的に学習に取り組む態度の定着を図るために、生徒の身近にある話題と授業の内容を結び付けて、興味・関心を高める授業を展開する。
- ・生徒の意見や考えを「ひきだす」「つなぐ」話し合い活動を取り入れた授業を計画的に設定する。
- ・授業で振り返りの時間を設定し、家庭学習につなげることができるようにする。

【国語】

- ・「書くこと」については、モデル文を示しながら書かせるようにする。
- ・漢字等の学習は、既習事項を振り返りながら進めるようにする。

【数学】

- ・前時までの知識や技能を活用して考える場面で、話し合う時間や意見を交流する時間を設定する。
- ・課題において、解き方を考えたり、試行錯誤したりする過程を大切にする習慣を付けるように、教師の発問やヒントの出し方など工夫して授業を行う。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

【共通】

- ・朝の時間を利用して、読書指導やタブレットドリルなど活用した学習指導を行う。
- ・家庭での過ごし方についてタイムマネジメントの指導や内的動機づけを行う。

【国語】

- ・漢字や文法の復習を継続して行うよう気がけて指導を行う。

【数学】

- ・家庭学習では、短時間でも毎日課題に取り組む習慣を身に付けるように指導する。
- ・テストやテスト対策問題で、学習状況調査の問題を利用するなどして、既習事項を活用して考える機会を増やす。